

児童生徒一人一人が今、主体的に活動できる授業づくり — 一人に応じた適切な目標と支援を目指して —

田村典子・立原幸枝・山口美栄子・星野英樹・伊藤嘉亮・阿部大樹*，清水茂幸**

*岩手大学教育学部附属特別支援学校，**岩手大学教育学部

(平成29年3月9日受理)

1. はじめに

(1) 本校の授業づくり

本校の学校教育目標は「現在及び将来の社会生活において、主体的に、そして、豊かに生きる人を育成する。」を掲げ、6項目の児童生徒の主体的に活動する姿を以下のように示している。

- ・ やりがいをもって意欲的に活動する人
- ・ 自分の力で取り組む人
- ・ 自分の役割に進んで取り組む人
- ・ 精いっぱい活動し満足感・成就感をもつ人
- ・ 仲間と共に協力する人
- ・ 心身共に豊かに生きる人

小学部、中学部、高等部の学部目標には、生活年齢に見合う主体的に活動する姿をこの6項目に対応した内容で示している。そして、各学部ではこの学部目標に基づいて単元を設定し、生活年齢に応じた活動内容に取り組む中で「主体的に活動する姿」を目標に据え、授業づくりを行っている。

(2) 平成26～27年度の研究成果

平成26～27年度の研究では、「今」に焦点を当て、今と将来は連続しており、「今」の積み重ねが将来につながると捉え、日々の授業で児童生徒が主体的に活動する授業づくりのために「授業づくりの視点」を設定し、「単元の設定」、「単元の計画」、「活動内容」、「学習内容への支援」、「協働的活動への支援」の5つの視点を示した。そして、授業実践を通して、「児童生徒一人一人が今、主体的に活動できる授業づくり」のためには「授業づくりの視点」に基づいた授業づくりに全校で取り組むことが有効であり、併せて日々の授業の改善を重ねる必要があることが明らかになった。このよう

に「授業づくりの視点」を基にしたPDCAサイクルにより、改善を重ねる授業づくりを基盤にして学校教育目標の達成を目指しているのが、本校の授業づくりである。

これを、「授業づくりの構想」として図1のように示した。

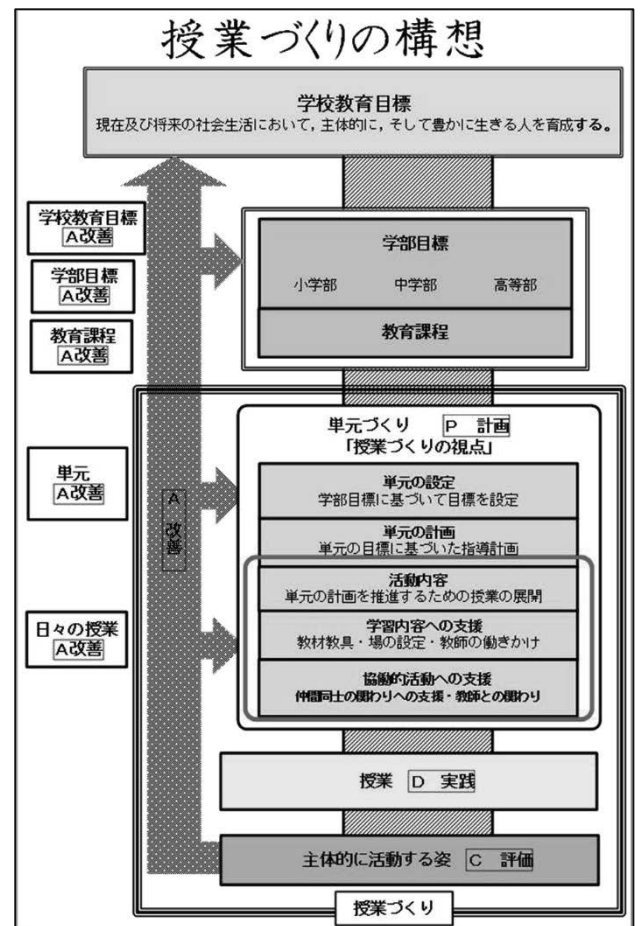


図1 授業づくりの構想

(3) 本校の授業づくりに求められるもの

これまでの研究では、学校教育目標を基に日々の授業の目標を設定することで、児童生徒全員が学校教育目標に示す「主体的に活動する姿」を授業で目指すことができるようになった。しかし、児童生徒の「主体的に活動する姿」は一人一人違っており、日々の授業で活動している様子におけ

る児童生徒の「主体的に活動する姿」について明らかにすることが大切になる。

以上のことから、平成26～27年度の授業づくりに引き続き取り組み、日々の授業における「主体的に活動する姿」を明らかにしていくために、児童生徒一人一人に焦点を当てていくことが必要である。

そこで、本研究は、主題を継続し、副題を「個に応じた適切な目標と支援を目指して」として、授業づくりを追究することを目的として行う。

2. 方法

(1) 学校教育目標と日々の授業の「主体的に活動する姿」のつながりの構想

児童生徒一人一人の目標を適切に設定するために、学校教育目標に示す「主体的に活動する姿」と日々の授業の目標設定のつながりを示す。

(2) 「主体的に活動する姿」を目指す授業実践

①指導案の様式の見直し

授業を計画する段階から「個に応じた適切な目標と支援」が設定できるように、これまでの指導案の様式と記入内容を見直す。

②指導案に基づく授業実践

指導案に基づき授業を実践し、日々の授業の改善を重ね、適切な目標や支援に迫る。

実施した授業実践は表1に示す。

表1 指導案を作成した授業実践

小学部	<ul style="list-style-type: none"> ○たんぽぽ組(1, 2年生) 遊びの指導 たんぽぽランドで遊ぼう② ○すみれ組(3, 4年生) 生活単元学習 みんなでつくろう! すみれクリスマスパーティー ○つくし組(5, 6年生) 生活単元学習 つくし畑パーティーをしよう
中学部	<ul style="list-style-type: none"> ○クラフト班 作業学習 作業Ⅲ「肴町商店街で販売しよう①「あにーわ」マグネットの製作 ○石けん班 作業学習 作業Ⅴ「大学祭で販売しよう」 ○園芸班 作業学習 作業Ⅶ「肴町商店街で販売しよう②」
高等部	<ul style="list-style-type: none"> ○木工班 作業学習 7月販売会に向けて、附特ミニベンチを作ろう～第1回ガンフ工房販売会を成功させよう～ ○手織班 作業学習 あにわ祭に向けて手織製品を作ろう～第2回ガンフ工房販売会を成功させよう～ ○陶芸班 作業学習 2月販売会に向けてコーヒークップを作ろう～第3回ガンフ工房販売会を成功させよう～

3. 結果

(1) 学校教育目標と日々の授業の「主体的に活動する姿」のつながりを示す構想

「授業づくりの構想」に示したように、学部目標、指導の形態別の目標、単元目標、日々の授業の目標、これら全ての目標が、学校教育目標に示す「主体的に活動する姿」を基にして設定するために、それぞれの目標を設定するための視点を示し、つながりを明確にした。これを、学校教育目標と日々の授業の「主体的に活動する姿」のつながりの構想とし、図2のように示した。

(2) 「主体的に活動する姿」を目指す授業実践

①指導案の様式の見直し

個に応じた目標と支援を目指して授業づくりを行うために、指導案の見直しを行い、図3のように示した。この見直しで大きく2つのことについて変更した。

ア)「VI個人の目標及び支援」の様式や内容の変更

これまでは、記入する内容は担当者に任せてきた。しかし、見直した指導案では、記入する際の内容を以下のとおり絞り込むようにした。

○「現在の学習の様子」については、これまでの学習での評価を基に目標設定や支援をイメージできる内容を記入するようにした。例えば、有効な支援について、「～のような支援により、～様子である」と実際に行われた内容を記入する。また、困っていることや支援が必要と思われることについて、「～できない」ではなく、支援や目標の手掛かりとなるように「どんな状況では、どんな様子なのか」という活動の様子を記入する。記入にあたっては簡潔に示すようにした。

○「本時の目標」については、活動の経過を大切にし、可能な限り、児童生徒の活動の様子が分かるようにした。

また、「本時の目標」の設定にあたっては「現在の学習の様子」を基にして設定する。

○「本時の支援」は、よりよく活動してほしい点やより力を発揮してほしい点は支援しながら目標達成を目指すために設定した。

イ) 評価の観点を加える

これまでの指導案には、評価の観点はなかった。しかし、児童生徒の日々の学習の様子の評価が次の授業の目標設定や支援の改善につながることから、評価が重要であると捉え、評価の観点を示した。評価の観点は、以下のとおりの4点である。

(この4点は本校の「主体的に活動する姿」を整理したものであり、観点別学習評価に符合するものである。)

- 自分で考え活動していたか、存分に活動していたか(関心・意欲・態度)
- 自分で判断して活動していたか(思考・判断・表現)
- 単元の目標や自分の活動を理解していたか(知識・理解)
- 自分の活動に首尾よく取り組んでいたか(技能)

②指導案に基づく授業実践

表1に示した計画どおり9つの授業について指導案を作成し、それに基づき授業を実践した。

ここでは、その様子について中学部園芸班の実践を例にア) 目標の設定、イ) 児童生徒の目標及び支援の2点についてまとめた。

ア) 目標の設定

「学部目標→指導の形態別の目標→単元の目標→本時の目標→児童生徒の目標」がつながるように目標の設定を行った(表2)。

イ) 児童生徒の目標及び支援

中学部園芸班の生徒Aについて計画し実践した(表3)。

表2 中学部園芸班の目標のつながり

学部目標
(1) 自分の仕事や活動にやりがいを持ち、意欲的に活動する生徒 (2) 自分の力で様々な活動に、存分に取り組む生徒 (3) 自分の役割に進んで取り組む生徒 (4) 活動を成し遂げ、満足感、成就感をもつ生徒 (5) 仲間と協力しながら楽しく活動する生徒 (6) 丈夫な体をつくり、すこやかな心をもつ生徒
作業学習の目標
(1) 各作業班における目標を達成したり、課題を解決したりすることにより、仲間とともに主体的に作業に取り組んだ達成感や充実感を味わう。 (2) 実際的な作業活動を通して将来の職業生活や社会自立に必要な事柄を身に付ける。
単元の目標
肴町商店街での販売会の成功を全員で目指し、もてる力を十分に発揮して日々の活動に取り組む。
本時の目標
自分の担当する製品作りについて理解し、精いっぱい取り組む。
児童生徒の本時の目標
丁寧に効率よくポップリの製品作りに取り組む。

表3 Aさんの目標及び支援

氏名等	現在の活動の様子	本時について	
		本時の目標	本時の支援(教材教具、場の設定、教師の働きかけ、その他)
Aさん (1年・男) ・ポップリ	<ul style="list-style-type: none"> ・リボン結びや紐とおしなどができ、やり方をすぐに理解して取り組む。 ・活動しているうちに手順が変わり、仕上りが一定にならないことがある。 ・製品が完成したことを喜び、意欲がわく。 	丁寧に効率よくポップリの製品作りに取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> ・一つ一つの工程に正確に丁寧に取り組むように気を付ける部分に手掛かりになるような印をつける。 ・効率よく作業を進めるように作業台を整理整頓し、工程順に並べる。 ・完成したら完成表に印をつけ、成果が分かるようにする。



図2 学校教育目標と日々の授業の「主体的に活動する姿」のつながりの構想

○学部○年「○○学習（グループ・班名）」学習指導案

日時 平成 年 月 日（ ）
 ○校時
 場所
 対象 学部 年（名）
 指導者 名前(T1) 名前(T2)

I 単元名 「○○○○○○○○～ 副題 ～」

II 授業づくりの観点

- 1 単元の設定【 小見出し 】
- 2 単元の計画【 小見出し 】
- 3 活動内容【 小見出し 】
- 4 学習内容への支援【 小見出し 】
- 5 協働的活動への支援【 小見出し 】

III 単元の目標【単元で目指す主体的な姿】

1

IV 単元計画（総時数 時間 日間）

	主な活動内容	月 日	時 数
第1次			

V 本時の授業

- 1 本時の授業について
- 2 本時の目標【本時で目指す主体的な姿】
- 3 本時の展開

学習内容 (時間)	学習活動	支援上の留意点
1 (時間)		

4 配置図

VI 個人の目標及び支援

氏名等	現在の活動の様子	本時について	
		本時の目標	本時の支援（教材教具、場の設定、教師の働きかけ、その他）
さん (年・男)			

VII 評価の観点

- 1 単元の評価の観点
 - 児童生徒は主体的に活動していたか。
- 2 日々の授業の評価の観点
 - 自分で考え行動していたか。
 - 自分で判断していたか。
 - 単元の目標や自分の活動を理解しているか。
 - 自分の活動に首尾よく取り組んでいたか。

評価の観点を加えた

様式や内容の変更

図3 指導案の様式

4. 考察

(1) 成果

本研究の1年目は、児童生徒に焦点を当て授業における「主体的に活動する姿」を明らかにしようとする取り組み、以下の3点の成果が得られた。

- ①学校教育目標と日々の授業の「主体的に活動する姿」のつながりの構想を示し、各目標のつながりを示した。
- ②実際の授業での活動における児童生徒の学習の様子を捉え、目標や支援の設定ができるように指導案の様式を見直した。
- ③本校の授業づくりでは、「本時の目標」は「児童生徒の現在の様子」を基に設定し、「本時の支援」を行うことで目標の達成を目指すことが明らかになった。

(2) 課題

学校教育目標と日々の授業での「主体的に活動する姿」がつながるように目標設定したが、児童生徒の学習の様子に基づいた目標や支援が適切に設定されているかについて明確にされなかった。そこで、以下の2点について課題に挙げ、2年目の研究で取り組んでいきたい。

- ①日々の授業で評価の観点に基づき児童生徒の学習評価ができるように、評価の観点についての捉えを整理していきたい。
- ②児童生徒の目標や支援を適切に設定するとともに、日々の授業で改善の視点になるようにしたい。

5. まとめ

本研究は2年次研究の1年目である。児童生徒一人一人に焦点を当ててすることで、平成26～27年度の研究で明らかにした授業づくりをさらに深化させるために授業実践を中心に取り組んできた。あくまでも授業づくりを追究することを目的に行うものであるが、「個に応じた適切な目標と支援」について明らかにしていくことで、個別の指導計画の内容の充実につながることを願っている。

研究2年目には1年目の課題を受け、授業実践

と授業研究会により、評価の観点から児童生徒の「適切な目標と支援」について迫っていきたい。

参考文献

- 1) 岩手大学教育学部附属特別支援学校(2007):「研究紀要第19集」
- 2) 岩手大学教育学部附属特別支援学校(2009):「研究紀要第20集」
- 3) 岩手大学教育学部附属特別支援学校(2011):「研究紀要第21集」
- 4) 岩手大学教育学部附属特別支援学校(2013):「研究紀要第22集」
- 5) 岩手大学教育学部附属特別支援学校(2014):「研究紀要第23集」
- 6) 名古屋恒彦著(2010):「特別支援教育 領域・教科を合わせた指導」のAB C～どの子にもやりがいと手ごたえのある本物の生活を～」
- 7) 太田俊己監修・千葉大学教育学部附属養護学校著(2004):「子ども主体・生活中心の教育シリーズ 支援案の書き方・個別の支援計画 ニーズに応える特別支援教育」
- 8) 独立行政法人国立特別支援教育総合研究所(2015):「専門研究B 知的障害教育における組織的・体系的な学習評価の推進を促す方策に関する研究—特別支援学校(知的障害)の実践事例を踏まえた検討を通じて—」